



学校だより

5月号 ☆

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



誰かのために 笑顔のために

校長 西山 久美子

新緑の美しい季節になりました。休み時間に外遊びを楽しむ子ども達は、さわやかな春の風を受けてきらきら輝いています。また、校庭の花壇では、ボランティアや委員会の子ども達が一生懸命に花を摘んだり水やりをしたりしています。花壇に美しい花が咲いているのは、学校のために手入れをするみんなのおかげなのだと思ってきました。



新年度がスタートし3週間余り、子ども達は新しい仲間とともに学級の目標や自分の目標に向かって着実に歩み始めました。新しいことに挑戦している真剣な表情や、できるようになった時の満足そうな顔は、何気ない日々の生活の中にもたくさん見られ、上星川小の子ども達のたくましさにうれしく思っています。

そんなある日、校内を回っていると学級の役割分担（係活動）を決めているクラスがありました。「私は〇〇係になりました。」と誇らしげに伝えてくれた声からは、学級のために自分のことに責任をもって取り組むぞという思いが伝わってきました。入学式後の体育館に体育用具を運んでいた6年生からは、学校のためにという意気込みが感じられました。また、他学年の教室前を通るとき、声を出さず足音に気を付けそっと歩く子どもの様子には、勉強しているみんなのために静かにしようという気持ちが表れていました。子ども達は「何のために」「今、何をすべきか」を考え、さらには「誰かのために」自分から行動に移すことができ、大変頼もしく思いました。学校で取り組む様々な活動は、常に「どんな力をつけるためなのか」を意識して指導しています。また同時に、誰かのためにという相手意識をもって取り組むことも大切にしています。人は、自分の行動が「誰かのため」「相手のため」に役立つことで自分が大切な存在であると感じることができ、さらには、相手が喜んでくれることがうれしいと思えた時に幸せを感じるのではないのでしょうか。きっと、花壇を手入れする子ども達も、花を見る人が笑顔になることをうれしく思うことでしょう。

子ども達には、「相手もうれしい！だから自分もうれしい！」の経験をたくさんしてほしいと思います。そこには、笑顔があり、ありがとうの言葉があり、子どもたちの豊かな心の育ちがあります。毎日の生活の中で、相手意識をもった活動を通し、子どもたちが自分を大切に思える環境づくりに引き続き力を尽くしてまいります。